

地域とともに作り上げた 足助バイパスのストック効果

柴田拓弥¹

¹名四国道事務所 計画課（〒467-0847 名古屋市瑞穂区神穂町5-3）

足助バイパスは平成22年度に事業が完了し、平成27年度に事業評価監視委員会において事後評価の審議が行われた。その中で沿線自治体である豊田市足助町、稲武町においてストック効果検討会を立ち上げ、事業の整備によって得られたストック効果を地域と協力して情報収集、情報発信を行った。今回は、ストック効果取りまとめ手法の一つとして地域とともに作り上げることを提案し、作業段階から広報の状況について報告するものである。

キーワード：ストック効果、事後評価、広報

1. はじめに

国土交通省では「事業完了後に事業の効果、環境への影響等の確認を行い、必要に応じて適切な改善措置、同種事業の計画・調査のあり方等を検討するもの¹」とし、平成15年度より事業完了後の5年以内に事業評価監視委員会において事後評価の審議を行うことになっている。昨今、事業によるストック効果が重要視されており、事業評価はもちろんのこと事後評価においても事業の効果が重要視されている。

本報告は国道153号足助バイパス（以下足助BP）のストック効果の把握において、沿線自治体である豊田市足助町・稲武町の2箇所ですべて「国道153号足助バイパスのストック効果検討会」を立ち上げ、事業の整備によって得られたストック効果を地域から情報収集、情報発信を行った事例について、作業段階から発信後の状況の成果と課題等を整理し、今後の事業広報に役立てる資料とするものである。

2. 事業概要

国道153号は愛知県名古屋市を起点に、豊田市・長野県飯田市等を経て塩尻市に至る延長約220kmの道路である。このうち豊田市足助町の中心市街地周辺では香嵐溪の紅葉シーズンは慢性的な渋滞が発生しているのと、中央自動車道恵那山トンネルを迂回する危険物運搬車両が市街地に流入し、歩行者の事故リスクが懸念されていた。なお、主要渋滞箇所としても指定されている。足助BPは足助地区での歩行者交通の安全確保、交通混雑の緩和、線形不良・通行規制の解消を目的に、地域からの要望により、昭和57年度に現道の拡幅およびバイパス建設等の事業を着手し、平成22年度に全線開通し事業を完了した。



図-1 足助BP位置図

図-1に位置図を示す。

3. 検討会の設置

ストック効果には、大きく分類すると、直接効果と間接効果がある。前者は、交通量や事故件数といったビックデータ等により、情報収集を行うことができる。

一方、後者は、事業の整備により得られた人流・物流の効率化や民間投資の誘発、観光交流など、データでは詳しく捉まえることが難しいため、アンケートやヒアリング等で沿線自治体や企業から直接意見をもらう必要がある。このような様々な効果を発信することは、更なる地方活性化や地方創生の一助となることから、事後評価を機に、情報収集・発信の場として、「国道153号足助バイパスのストッ

ク効果検討会」を立ち上げた。検討会は図-2に示すとおり豊田市役所足助支所・稲武支所を窓口としてそれぞれ足助地区部会と稲武地区部会を設置し、各地元団体等との調整を行った。図-3のように支所内の会議室で複数社と同時にヒアリングを行うことで、お互いが情報を引き出すような形で、対話の中で当方では知り得ない新たな情報や意見などを効率的に集めることができた。

検討会により得られた情報は事後評価の説明資料に使用することに加え、後述の公表冊子としてとりまとめた。公表冊子は名四国道事務所のHPでの公開(http://www.cbr.mlit.go.jp/meishi/doro/153asuk_e/stock-kouka.pdf)をするとともに、各自自治体・企業より配付を依頼し、地域からの情報発信に活用していただいた。公表冊子の内容および配付状況等は後述の6. に示す。

4. 足助町、稲武町におけるストック効果

3. で述べた、ストック効果を地域と協力して収集し、発信していくための検討会での結果として、足助町・稲武町のどちらもストック効果を実感していることが分かった。

(1) 足助町でのストック効果

- ・市街地を通行する車両が全体で約5割、大型車では約7割が足助BPに転換
- ・足助BPを利用することで、観光ピーク時において

も所要時間が約1時間短縮

- ・香嵐溪中心だったイベントが現道国道153号をはさんだ古い街並みと一体となったイベント開催ができるようになった。

(2) 稲武町でのストック効果

- ・足助(香嵐溪)止まりだった観光客が足助BP開通により足を運んでもらえるようになり、来場者数が約7倍に増えた。
- ・開通前は急な配送の依頼を断られることもあったが、開通後は配置エリアが拡大し、応じてもらえるようになった。
- ・来客者から「稲武は遠いイメージだったが、意外と近い」と意見をもらった。

(3) 両町の比較

(1)、(2)より得られたストック効果を比較すると、足助BPに近い足助町は直接効果が、足助BPから遠い稲武町は間接効果が大きく得られていることが分かる。足助BPが市街地の混雑緩和を目的に整備された道路のため、足助町では市街地から車が減った直接効果が印象強く意見に反映されており、稲武町では



図-3 検討会の開催

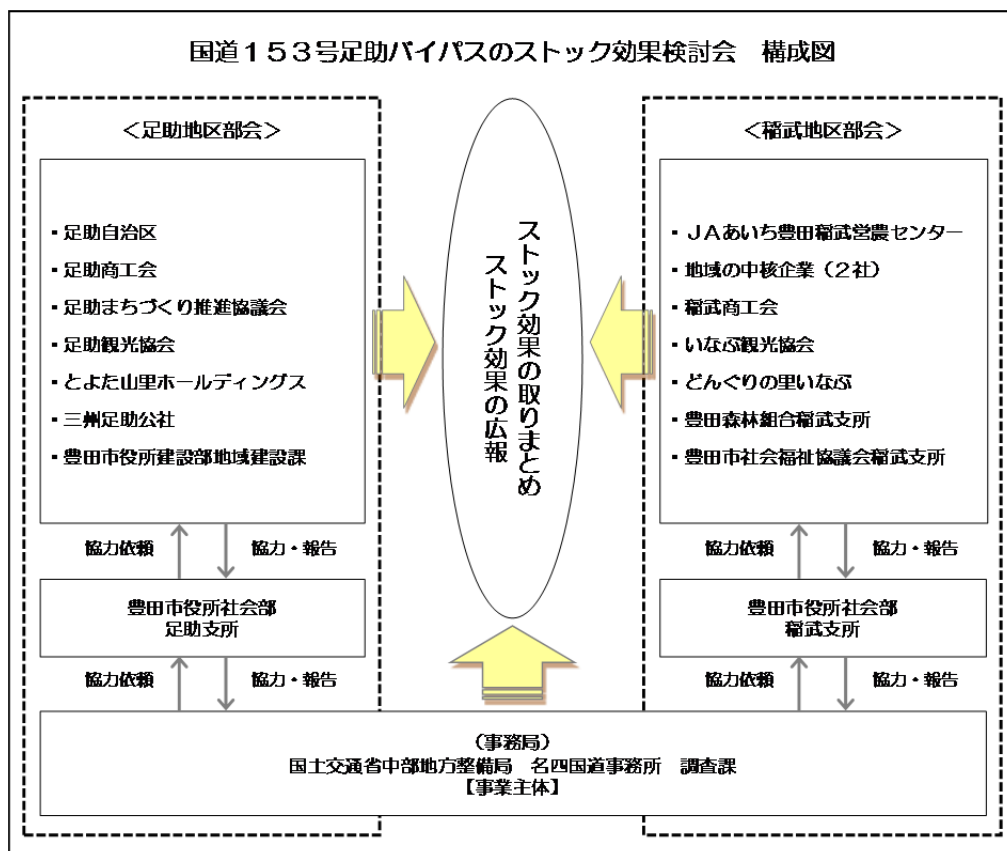


図-2 検討会構成図

足助市街地をスムーズに通過することで間接効果が波及していることが意見より把握することができた。

今回のヒアリングでは当初足助町からは意見が多く貰え、稲武町からは何も出てこないと予想していた。しかしながら、稲武町から多くのストック効果が生まれていることが分かった。これにより事業実施箇所だけでなく、広域的な目で見ることで新たなストック効果が生まれてくることがわかった。

5. 広報活動

(1) 記者発表

これらのストック効果を多く周知するためにポスターや図-3に示す広報冊子にまとめるとともに、記者発表を行い名四国道のHPおよび表-1に示す箇所にて配付することで、情報発信を行った。また、表-2に示す報道機関にて掲載された。

(2) 冊子への反響

これらの広報資料公表後に道路利用者から今回のストック効果に対する評価を把握するため、道の駅「どんぐりの里いなぶ」（豊田市稲府町）にてアンケート調査を行った。サンプル数と得られた意見を表-3に示す。足助BPの認知度は調査箇所の影響もあり、約8割の方が知っているという回答を得られた。効果については所要時間の短縮や渋滞の緩和といった時間短縮効果や、走りやすくなったといった機能向上の意見の割合が多く、一般の利用者も効果を実感していることがわかった。一方で、「ストック効果」という言葉の認知度調査も行ったが、約9割が知らないといった回答が得られ、記者発表等に用語説明を一文加えるなど周知を図る必要があると考えられる。

次に、広報冊子の内容について分かりやすいか伺ったところ約半数から見やすいと高評価を得られた。具体的には写真が多く使われている点、レイア



図-3 広報冊子

ウトが整理されている点などが多く評価された。しかしながら、わかりにくい箇所として内容の多い点を指摘されている。冊子は全44頁あり、内容も事業概要や整備効果など多岐にわたる。そのため、とりまとめた成果が薄まらないような工夫が今後の課題である。

(3) 伊勢神改良への期待

今回は足助BPの事後評価のためにヒアリングを行っているが、地域からは完了した事業よりも次の整備への期待と意見が多く上がった。特に稲武町からは現在名古屋国道事務所が行っている国道153号伊勢神改良の名が挙がった。アンケート調査でも約7割から整備に賛成する意見を得られており、期待されていることがわかる。現在の伊勢神トンネルは断面が小さく、大型車が車体をこする事があるため、観光バスが伊勢神を嫌い、稲武町まで来ないと意見を貰っている。伊勢神改良の事業により、内陸部への安心・安全でスムーズな輸送が期待され、稲武や他の沿線自治体・企業より新たなストック効果が生まれると期待される。

6. まとめ

足助BPの事後評価を行うにあたり、地域で検討会を立ち上げ地域とともにストック効果の発掘、発信を行った。その結果、地域団体・企業から同時にヒアリングをすることで、我々だけでは発掘できなかった新たなストック効果を収集し、公表することが出来た。また、検討会を立ち上げたことで、公表における地域との事前調整をスムーズに行うことができ、発表後の広報活動についても多くの協力を頂き、多くの人にストック効果を周知することが出来た。こ

表-1 冊子配付場所と配付部数

	団体名	配布部数
足助地区	足助支所	40
	足助自治区	70
	足助商工会	100
	観光施設(2箇所)	70
稲武地区	稲武支所	50
	稲武商工会	30
	いなぶ観光協会	550
	道の駅どんぐりの里 いなぶ	500
	社会福祉協議会	30
	地元企業(3社)	40
合計		1,480

表-2 報道掲載

日時	報道名
12月4日	朝日新聞西三河版
12月4日	建設工業新聞
12月4日	日刊建設産業新聞
12月7日	エフエムとよた ホットニュースとよた530内

表-3 アンケート結果

収集サンプル数：119(うち男性103、女性16)	
1. 認知状況	
・足助BPを知っていますか？ <ul style="list-style-type: none"> ■ 事業概要も知っている 27.7% ■ 名前や場所は知っている 58.0% ■ 知らない, 初めて聞いた 14.3% 	・足助BPの整備効果についてどうお考えですか？ <ul style="list-style-type: none"> 所要時間が短縮 63.9% 渋滞が緩和 58.8% 所要時間が安定し時間が読めるように 21.8% 道路線形が良くなり、走りやすく 53.8% 足助市街が静穏化 5.9% 足助市街を歩行する際の安全性が向上 6.7% 稲武地区や奥三河へ出かけやすくなり、地域の観光が活性化 15.1% 流通が盛んになり、企業の活動が効率化 6.7% 新たな工場進出などによる雇用が増加し、地域の経済が活性化 4.2% 豊田市などへ出かけやすくなり、人口流出に歯止め(定住が促進) 5.0% 救急搬送時や介護時の移動負担軽減 15.1% 企業間取引が増え、経済が活性化 4.2%
・ストック効果を知っていますか？ <ul style="list-style-type: none"> ■ 知っている 1.7% ■ 聞いたことがある 6.7% ■ 聞いたことがない 90.8% 	
2. 広報冊子について	
・冊子の見やすさ、わかりやすさはいかがですか？ 見やすい、わかりやすい・・・51.3% 見にくい、わかりにくい・・・25.2%	
・冊子のわかりやすい点 <ul style="list-style-type: none"> 写真がふんだんに使われており、視覚に訴えているところ 73.8% レイアウトが整理されているところ 24.6% 効果がグラフや写真で明示されているところ 18.0% 見出しが端的に書かれているところ 9.8% 地域からの声が掲載されているところ 1.6% その他 8.2% ただ何となく 11.5% 	・冊子のわかりづらい箇所 <ul style="list-style-type: none"> ■ 内容多い 56.7% ■ 文字が小さい 0.8% ■ ページ数が多い 13.3% ■ その他 26.7% ■ なんとなく
自由回答 ・観光案内だと思ってしまった。 ・お金がかかりすぎている、見開きがいい。	
3. 改善要望	
・BPを延伸してほしい(追分交差点から)、線形改良(153号全線に対して)、車線を増やしてほしい、スピード超過の注意喚起を付けてほしい。	

のことから、ストック効果把握のためのヒアリングを事業主体と沿線自治体・企業の一対一で行うのではなく、一対複数で行うことでより多くの情報入手、発信することが出来ると考えられる。そのためには地元自治体に窓口として協力をお願いする必要があり、完了した事業に対しても日頃からのフォローアップが大切であるとする。

これで国道153号足助バイパス整備事業については一段落するが、今後は伊勢神改良の事業推進を地域ともに期待するとともに、他の事業においても、事業推進を目指すため、効率的にストック効果を把

握する手法をこの事例を参考に、検討していく。

謝辞

今回の事後評価をまとめるにあたり、ストック効果検討委員会の皆様、豊田市役所足助支所・稲武支所、株式会社建設技術研究所のご協力を得ました。ここに記して感謝いたします。

参考文献

- 1) 国土交通省, 事業評価の仕組み, http://www.mlit.go.jp/tec/hyouka/public/09_public_01.html, 2016.3